



多田さんのサニーレタス



ハウスを中心に葉物を栽培している多田さん。穏やかで几帳面な性格が野菜作りにも反映されています。



収穫から袋詰めまでのスピードは、1分でなんと3袋。長年の経験と技ですよ。



大きくてほんわかした食感で、苦みも少なく、ほのかな甘みを感じるサニーレタスです。

★ベテランが作る冬に貴重なレタスです

12月に入ったというのに、とても師走とは思えない温暖な気候が続いています。本来、霜が降りて生育が遅くなるはずの季節にこの気温ですから、葉物はどんどん大きくなってしまっています。今年で72歳になった農業の大ベテランの多田さんも「こんな年は今まで無かったな」と言います。12月中旬以降から出す予定の多田さんの小カブは、もう出荷出来ないぐらいの大きさになってしまいました。「寒い時は寒くなる、という当たり前にならないとな。野菜が高い時はニュースになるけど、安い時は誰も騒がないよな。町の人が良いけど農家はみんな大変だよ」そして、多田さんのサニーレタスも例年以上に生育が進んで、おおぶりとなっています。「例年ちょっと種蒔き時期が遅い感じだったから、今年は早めたら、この天気だものな。大きくなっちゃったよ」

そんな多田さんの栽培方法は例年同様、真夏の8月頃に馬糞を中心とした堆肥や肥料を施し、ビニールを張ってハウスを締め切ることで、太陽熱で病害虫や草の種をやっつけます。また、一般的にはハウスは経営効率を考えて年に3~5回作るのですが、多田さんは年に2作で無理をしません。1つ1つ丁寧に仕事をして仕上げる野菜作りは、多田さんの実直で几帳面な仕事ぶりが映し出されています。大きめで葉が柔らかく、苦みもほとんど感じない多田さんのサニーレタス。冬の貴重な生野菜ですので、モリモリたくさん食べて下さいね。

おかげさま農場は「食は命」をテーマにしています。化学合成農薬や化学肥料を使わないことを基本としています。

【産地情報】

◎殻付落花生の販売が始まりました。